

## ●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

## 【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策 事業名	目標項目	担当課	目標	達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績	令和2年度の活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記
						数値・内容目標	同左数値の 目標達成年次	同左目標達成 の数値・内容	KPI提案	KPIの現況値 及び内容	同左現況値の 年次	令和2年度		
1	継続	29	企業誘致事業	地元企業による地 元雇用採用人数	企画課	地元企業による地 元雇用採用人数	R6年度	75人	75人	73人	H27~31年度	20人	町の企業を紹介するパンフレットを作成し、地元就 職やUターン就職希望者、移住希望者などに、町の 企業のPRを行った。	奨学金の返還支援制度を創設し、地元で就職する若者への支援を 行うとともに、町内企業にも制度を周知し、地元雇用を促進する。県 担当課と県内の企業誘致について情報共有しながら、連携して企 業へのPRを行い、誘致につなげられるよう努める。
2	継続	30	創業支援事業	新規創業者の創出	企画課	新規創業者の創出 25件	R6年度	25件	創業者:年間5件	年間約5件	H27年 5件 H28年 5件 H29年 6件 H30年 4件 R1年 4件	創業者数(補助金交付数):3 件	・創業新補助金の交付 ・創業支援事業計画の変更 ・創業セミナーの開催	創業者の3件中2件が移動販売・お弁当販売とコロナ禍 に対応した事業者が町内に生まれたことは、飲食業の衰 退が危ぶまれる時期においても町の活性化につながる良 い事例ができた年となった。今後は商工会との情報共有 の密度を上げ、新たな創業希望者の掘り起こしとサポート 体制を強化していくと共に、創業支援体制の周知し創業 に係る機運の向上に取り組み、Uターン者や移住希望者 に対する周知について強化する必要がある。
3	継続	30	繊維産業活性化 加速化事業	①織物オリジナル 商品開発数 ②SDGs 開発目 標の取り組み達成 項目数	企画課	①歴史資源を活かし たオリジナル 商品開発 20点 ②SDGs開発目標の 取り組み達成項目 5項目	R6年度	①20点 ②5項目	R6年度までに ①20点 ②5項目	①5点 ・キモノール ・不動滝白装束 ・ネオ能登上布 ・ポップコーン ウェア ・どぶろくアウト ②0項目	R元年度	①27点 ②4項目 ※①は目標達成	【テクシる】 ・ネオ能登上布マスク 14種類 ・どぶろく袋 1種類 【障害攻略課プロジェクト】 ・繊維スポーツ:SDGS玉入れなど 9種類 ・巻き物パンフレット 1種類 ・織物ゆりかご 1種類 ・織物ヘキサゴン(壁紙展示)1種類 計 27種類	コロナ禍で、マスク需要があり伝統織物「能登上布」と合 織を組み合わせたご当地のマスク制作が完成した。ま た、障害攻略課プロジェクトの繊維スポーツ完成もパ ラリンピック2020の開催時期とも重なり、中能登町が障がい 者にもやさしいまちであることのPRにつながった。今後は 高齢者や障がい者施設、スポーツ推進員とも連携して普 及に努める。 また、町内で織物を有効活用した取組みを推進してい き、「織物の町・中能登町」をPRしていきたい。
4	継続	30	農業の担い手確 保・育成	認定農業者・農業 法人設立数	農林課	認定農業者、集落 営農組織、農業法 人への転換・育成の 支援	R6年度	個人経営から集落 営農・農業法人への 転換及び広域化へ の支援並びに新規 就農者からの認定 農業者・農業法人へ の育成	経営体数85	経営体数82	R元年度	78 (0)	更新 12経営体 変更 1経営体 取り下げ 4経営体	12経営体が認定更新をしたが、高齢等の理由による離 農や法人化に伴う個人認定の取り下げが4経営体あつ た。今後、新たに認定される個人・法人より、認定を取り 下げる個人が上回る可能性が考えられるため、認定就農 者や基本構想所得水準達成者を認定農業者へ誘導して いく。
5	継続	30	新規就農者の 確保・育成	新規就農者数	農林課	新規就農者の確保	R6年度	累計8人	R6年度までに累計8 人	累計6人	R元年度	6 (0)	新規就農者の掘り起こしと確保・育成を目指した が、農業に取り組みようとする若者が現れなかった。	新規就農者は現れなかったが、親から経営継承した若手 農業者は増えている。今後は、経営継承者を含めた新た な就農者の確保・育成する支援体制をつくる。
6	継続	31	どぶろく特区を 活かした まちづくり	濁酒製造業者数	企画課	どぶろく飲み比べの まちを目指して 濁酒製造業者を3経 営体創業者	R6年度	3経営体	R6年度までに 3経営体 累計 5経営体	2経営体 太郎右衛門 さえさ	R元年度	0経営体	どぶろく生産者までの手順などを表記した、どぶろく パンフレットを500部作成したが、生産者育成まで には至らず。生産者候補として、能登やまびこと二 宮に移住されたインバウンドの方が検討中。	生産者増にはいたらなかったが、どぶろくパンフレットを作 成したことで、生産者を志す方に情報提供することが可 能となった。今後は、実際の「生産者の動画」などを制作 して参考書となるよう働きかけたい。
7	継続	31	特色ある農産物の 産地化	特色ある園芸品 目・カラー野菜の 売上(年間)	農林課	道の駅直売所、中能 登直行便への園芸 品目・カラー野菜の 出荷量増加	R6年度	年間売上額2,000万 円以上	年間売上額2,000万 円以上の維持継続	R元年度に初めて年 間売上額2,000万円 を達成	R元年度	1093万円	生産農家数 41農家 新規ハウス設置 3棟	コロナ禍において売上額は減ったが、生産農家は増えて おり、引き続き、営農指導員、直売所スタッフの指導によ る栽培技術向上を図り、野菜の安定的な出荷体制構築 に努める。

●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策 事業名	目標項目	担当課	目標	達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績	令和2年度の活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記
						数値・内容目標	同左数値の 目標達成年次	同左目標達成 の数値・内容	KPI提案	KPIの現況値 及び内容	同左現況値の 年次	令和2年度		
8	継続	31	しごと 有害鳥獣対策事業	有害鳥獣による農作物被害	農林課	有害鳥獣による農作物被害の抑制	R6年度	年間被害額100万円以下	年間被害額100万円以下の維持継続	R元年度に初めて年間被害額100万円以下を達成	R元年度	84万円	イノシシ捕獲数 成獣76頭、幼獣82頭 捕獲用檻設置 44基 新規狩猟免許取得者 わな5件、銃1件	イノシシの捕獲頭数は前年の半分であったが、生息頭数減少の影響もあり、農作物への被害が抑制された。
9	継続	32	ひと 移住定住促進事業	定住促進奨励金を活用した移住者及びUターン者数	企画課	移住者数 250人(各事業対象者と一緒に転入した同世帯の者を含む)	R6年度	250人	R6年度までに、移住者及び250人(各事業対象者と一緒に転入した同世帯の者を含む)	移住者 244人	H27年 41人(定住奨励金40人、空き家バンク賞賛0人) H28年 37人(定住奨励金33人、空き家バンク賞賛3人) H29年 38人(定住奨励金36人、空き家バンク賞賛0人) H30年 64人(定住奨励金62人、空き家バンク賞賛0人) R1年 71人(定住奨励金70人、空き家バンク賞賛0人)	・申請件数:46件 ・転入者数:70人(転入者内訳) ・移住者:68人 ・Uターン:2人	申請者に対する奨励金の交付に加え、移住促進に係るパンフレットを6種作成した。役場窓口、町内事業所にて配布している。	目標達成に向け、R2申請者数を維持していく必要がある。今後は、能登地域移住交流協議会として移住促進事業を積極的に行い、パンフレット及び奨励金制度などを幅広く周知し、移住に対する機運向上に努める。
10	継続	32	ひと 宅地造成事業の推進	「新良川駅東」の残区画の販売	土木建設課	「新良川駅東」の残3区画の販売	R2年度	3区画	R2年度	5区画	R元年度	3区画(完売)	様々な媒体を活用しつつ、販売促進を図ったことにより、残る3区画の宅地造成地を完売させることができた。	R2年度の目標は100%達成できた。今後も引き続き人口減少に歯止めをかけるべく、分譲宅地の整備を図り、町内外からの移住・定住に向けた取り組みを図る。
11	継続	32	ひと 町営住宅の更新	町営住宅の建替え戸数	土木建設課	町営住宅建替え 30戸	R6年度	30戸	R6年度までに30戸	5戸	R元年度	0戸	久江住宅15戸、芹川住宅15戸については、PF事業の手法を活用した建替えを進めており、9月に契約業者が決定した。今後は、工事着手に向けて推進していく。	今後も引き続きR6年度事業完了に向けて事業進捗を図る。
12	継続	33	ひと 巻き込み・関係人口プロモーション事業	①体験交流ツアーの実施回数 ②まちコンシェルジュ人材育成人数	企画課	①体験交流ツアーの実施回数 ②まちコンシェルジュ人材育成人数	R6年度	①体験交流事業年2回実施 ②まちコンシェルジュ人材 R2-R6年度累計 10人(累計)	体験交流事業年2回実施 まちコンシェルジュ人材 R2-R6年度累計 10人	—	—	①34回 ②9人	中能登町観光特使 山崎研一氏招聘による阪急交通社の雨の宮古墳ツアーの実施や(一社)中能登スローツーリズム協議会事業のびゅうトラベルサービス企画の石動山ツアーを実施したほか、障害攻略課プロジェクトでご当地スローを使ったモニターツアー(能登上布会館や旧丹後邸)を実施した。 ①阪急交通社 31回(R2.3月~R2.11月) ※延べ1500人来町 石動山ツアー 2回(R2.11月) バリアフリーツアー 1回(R3.2月) ②まちコンシェルジュ 9名 (一社)中能登スローツーリズム協議会 船木・久保・稲葉・大湯・浅木・三浦・亀井 (農家民宿・中能登町移住定住促進協議会) 島・辻屋	コロナ禍で当初計画していたツアーが大幅に縮小されたが民間や町民有志の団体が中能登町のツアー招聘に尽力いただく体制が整ったことは今後の中能登町の関係人口構築において寄与するものと考えられる。また令和3年度には、スローツーリズム協議会が旅行ツアーの予約システムを構築することから、体験交流ツアーの実績も増えることが見込まれる。引き続きKPI目標達成のため、人材発掘や育成に努めていきたい。

●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策事業名	目標項目	担当課	目標	達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績	令和2年度の活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記
						数値・内容目標	同左数値の 目標達成年次	同左目標達成 の数値・内容	KPI提案	KPIの現況値 及び内容	同左現況値の 年次	令和2年度		
13	継続	33	ひと	ICTを活用した魅力ある観光推進事業	①観光施設等の来訪者数 ②ICT活用の成功事例件数 ③デジタル支援員の育成数	企画課	R6年度	①300,000人 ②累計 3件 ③累計 10人	H27~31年の来訪者平均 274,000人 成功事例0件	H27~31年	①187,317人 ②0件 ③19人 ※③は目標達成	コロナ禍で観光施設の入込客数は前年度比の60%減となり、観光業界に大打撃となった。ICTの活用としては、現在、石川高等専門学校とゆうゆうなどの高齢者施設で機械が自動でしゃべる「Aisピーカー」の実証や研究を進めている。また、総務省の「デジタル活用支援員推進事業地域実証事業」の事業採択を受け、スマホやLINE、マイナンバーカードの普及などの相談会や高齢者に教えるデジタル活用支援員の育成の研修を実施し、19名の支援員を育成した。また支援員受講者には全国最高齢97歳の方も受講して全国で話題になった。	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方針などを明記	
14	新規	33	ひと	外貨を稼げる魅力イベント推進事業	全国からも注目されるイベントの開催回数(年間)	企画課	R6年度	年間2回開催 関係人口 年間10,000人 (ワクドキP目標値)	年間2回開催 関係人口 年間10,000人 (ワクドキP目標値)	-	1回	コロナ禍でイベントの中止の制限がされるなか、障害者攻略プロジェクトの一環として、地元の障がい者施設つばさの会と連携して織物を活かした「異彩なアート展」を実施。利用者の作品の表現力が世界で評価され自立できるしくみを生み出す可能性や織物デザインセンターのサンプルを有効活用した利用者の描画やドレス展示などを盛り込んだイベントとなり、2週間(R3.2月)で1000人が来場。メディアにも取り上げられた。3年後の国民文化祭も見据え、多様性を活かしたアート展の実績や経験値を積むことで、アフターコロナの先進的なイベントとして進めていく。 ●異彩なアート:2/17-2/28 創修館966人	KPI目標達成に向け、つばさの会や関係団体とも引き続き連携して異彩なアートなどの、中能登町の魅力を発信できる新たなイベントを企画しつつ、「織物のまち」を全面にPRできるイベントの一つでも創出していきたい。	
15	新規	33	ひと	中能登ファンを獲得するふるさと納税魅力発信事業	ふるさと納税額	企画課	R6年度	納税額 毎年約30%アップ R2 6,000千円 R3 8,000千円 R4 10,000千円 R5 12,000千円 R6 14,000千円	5,000千円	R元年度	13,327,142円 (260件)	●道の駅、商工会等と連携し、1年間で返礼品の数を33種類増やした。 令和2年4月:45種類→令和3年4月:78種類 ●ふるさとチョイス、ふるなび、さとふる、楽天の4つの民間サイトを活用した。 ●観光協会のインスタグラムアカウントを使用し、返礼品の紹介をした。	13,000千円を超える納税があり、令和元年度と比べると約8,000千円増え、過去最高の納税額となった。納税件数についても、令和元年度より約100件増えた。今後は、納税額をより増やすため、全国的に中能登町の魅力をより知ってもらえるような様々な媒体を使い、中能登ファン獲得に努める。	
16	継続	34	ひと	誰もが輝けるファッションのまちづくり事業	ファッションショーの開催回数(年間)	企画課	R6年度	年間1回	年間1回	斬新なファッションショー1回 切斯ヴィーナスショー	R元年度	0回	コロナ禍で大衆の集まる町祭などのイベントが中止、規制され、ファッションショーの開催ができなかった。	KPIの目標達成に向けて、町祭などに依存しない新たなファッションショーの在り方を検討し、オンラインなどの開催も視野に入れて次年度以降工夫しながら開催して織物の町をPRしていきたい。
17	継続	34	ひと	鹿西高校魅力向上支援事業	町内出身者の鹿西高校進学者数	企画課	R6年度	50名 R2-R6の5年間平均値	R6年度までに20人増 累計50人平均	入学者数 30名 H27-R1の5年間平均値	R1年度	28名	鹿西高校の魅力化を図るため、文部科学省の進める「総合的な探究の時間」を3年間の生徒育成プロジェクトとして推進し、持続可能な社会の創り手を育成するべく、質の高い教育方針を確立し、4月に産官学連携の探究コンソシアムも設立された。現在は、成績表の評価項目に「探究の時間」が明記されている。 [1年生]能登観光プラン企画 [2年生]企業の課題と解決を図る [3年生]SDGsの貢献意識の醸成 →「持続可能な社会の創り手」を育成  また、伝統のおにぎりコンクールにおいて生徒考案のおにぎりを商品化して、生徒が道の駅で販売することで、特産品の魅力発見や販路などの経済流通の学ぶ機会として、中能登町の地域特性を活かした高校魅力化を図った。	引き続きKPI目標達成に向けて、探究の時間やおにぎりコンクールの事業を継続し、高校の魅力化を推し進める。また中学生との交流授業や連携授業も進めていきたい。

## ●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

## 【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策 事業名	目標項目	担当課	目標	達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績	令和2年度の活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記
						数値・内容目標	同左数値の 目標達成年次	同左目標達成 の数値・内容	KPI提案	KPIの現況値 及び内容	同左現況値の 年次	令和2年度		
18	継続	35	子育て 環境	結婚推進事業	企画課	①推進事業での 成婚20組 ②出会いの場創出 2回/年 ③プランナーの育成 10人	R6年度	①20組 ②2回/年 ③10人(累計)	①年間4組 ②2回/年 ③10人 (R2-R6累計)	H27年 4組 H28年 3組 H29年 3組 H30年 2組 H31年 1組	H27~31年度	①3組 ②0回 ③9人	毎月3回結婚相談を開催した。 当初予定していた婚活イベントはコロナにより中止 となった。	現在の相談会場での相談件数は非常に直接電話や家へ の問い合わせが多い状況である。プライバシーの観点か ら会場(役場等)へ行きにくいのではないかとと思われるの で、今後はこの点を改善して行きたい。今年度は、とりあ えず、相談日において、電話相談も可能にする取り組み を行う。 婚活イベントについては、コロナの影響もあり、対面では むずかしい面があるが、今後はオンライン等を利用したも のを考えていきたい。
19	継続	36	子育て 環境	不妊症治療費の 助成	健康保 険課	不妊治療者の妊娠 届出数について、R2 ~R6の5年間で50 件を目指す(1年間 あたり10件)。	R6年度	不妊治療者の妊娠 届出数について、 R2~R6の5年間で 50件を目指す(1年 間あたり10件)。	50件	33件	平成27~30年度の 合計件数	5件	不眠治療助成 ・一般不妊治療費助成1件、 ・特定不妊治療費助成4件	国の動向を見ながら、希望者が適切に治療を受けられる よう、推進していきたい。
20	継続	36	子育て 環境	不育症治療費の 助成	健康保 険課	不育症治療者の妊 娠届出数1件 (R2~R6年間で)	R6年度	不育症治療者の妊 娠届出数1件 (R2~R6年間で)	1件	0件	平成30年度	0件	不育症治療費助成0件	国の動向を見ながら、希望者が適切に治療を受けられる よう、推進していきたい。
21	継続	36	子育て 環境	出産祝金	健康保 険課	100人を目指す。	R2年度	100人	100人	出産祝金申請件数 H27 102人 H28 126人 H29 112人 H30 81人	H27~30年度	85人	出産祝金支給事業 ①第1子27人 ②第2子28人 ③第3子23人 ④第4子5人 ⑤第5子2人 計85 人	引き続き、子育て環境の充実のために取り組む。
22	新規	36	子育て 環境	妊産婦健康診査事 業	健康保 険課	95% 妊産婦健康診査受 診率	令和6年度	95%	95%	90.4%	平成30年度	100%(初回受診率)	妊娠届出に来所された全ての方に、妊婦健診受診 券を発行。妊娠中から出産後に行う健康診査や教 室について、チラシを用いて説明している。 妊婦健診の必要性について説明し、受診率の向上 につなげている。	引き続き、妊婦健診の必要性について説明し、受診率の 向上につなげていきたい。
23	新規	36	子育て 環境	乳児家庭全戸訪問 事業	健康保 険課	100% 乳児家庭全戸訪問 実施率	令和6年度	100%	100%	98.80%	平成30年度	99%	乳児家庭全戸訪問実施率:99% ※訪問できなかった家庭については、電話での様 子確認を行った。	引き続き、安心して子どもを産むことができる町をめざし ていきたい。
24	新規	36	子育て 環境	乳幼児健康診査事 業	健康保 険課	95.0% 乳幼児健康診査受 診率	令和6年度	95.00%	95.00%	98.80%	平成30年度	98.90%	4か月児健康診査受診率...98.1% 1歳7か月児健康診査受診率...100% 3歳児健康診査受診率...98.8% 未受診者について: 4か月児健診対象者については、入院中等の理由 により、受診できなかったが、家庭訪問や来所にて 児の様子を確認した。 3歳児健診対象者については、次年度に受診済。	引き続き、入院中等の理由で受診できない対象者以外、 すべての対象者が受診できるよう、案内を行っていく。

●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策事業名	目標項目	担当課	目標	達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績	令和2年度の活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方針などを明記
						数値・内容目標	同左数値の 目標達成年次	同左目標達成 の数値・内容	KPI提案	KPIの現況値 及び内容	同左現況値の 年次	令和2年度		
25	新規	36	子育て環境 子ども家庭総合支援拠点事業	子ども家庭総合支援拠点の設置と機能強化	健康保険課	拠点1か所 人員2人	R3年度	拠点1か所 人員2人	拠点1か所 人員2人	設置無し		令和3年2月 拠点1か所 設置	令和3年2月開始、行政サービス庁舎 健康保険課 子育て支援室内	令和3年度から、子ども家庭支援員を採用し、本格的に 機能強化に努めていく
26	継続	37	子育て環境 三世代ファミリー同居促進事業	三世代の同居・近居に対する助成件数(年間)	健康保険課	年間3件。累計10 件。	R6年度	累計10件。	年間3件。			0件	三世代で同居を始めるための住宅新築等で20万 円を交付する事業であった。平成27年度に石川県 三世代ファミリー同居・近居促進事業の実施に合わ せて、町も補助を実施したが、申請件数は低調で、 令和2年度については、申請件数は0件であった。 事業に対する需要がなくなってきたため、令和3年3 月31日で廃止とする。(石川県は、令和元年度で 事業廃止)	近年の申請件数の減少、また県の補助事業も、令和元年 で廃止となった為、町の補助事業も令和2年度で廃止と する
27	新規	37	子育て環境 時代に即した教育の実施	ICT 端末の整備	学校教育課	児童・生徒1人に1 台端末の整備	R4年度	児童・生徒1人に1 台端末の整備	児童・生徒1人に1 台端末の整備	電子黒板:小学校2 7台、中学校6台 タ ブレット:小学校120 台、中学校40台	R1年度	全ての児童・生徒1人に1台端末を 整備  電子黒板:小学校13台、中学校9台 整備 タブレット:小学校850台、中学校 475台整備	新型コロナウイルス感染症拡大により、GIGAスкуль 構想の取り組みが加速した。 国の補助金を活用して、全児童生徒に1人1台端末 (タブレット)の整備を図ることができた。 電子黒板の導入も計画的に進んだ。	電子黒板の導入を計画的に進める。 ICTを活用した学習が進むよう、学習環境を整える。
28	継続	37	子育て環境 町立保育園再編検討事業	町立保育園再編計画の策定	健康保険課	保育園再編検討委 員会を開催し、再編 計画を策定する。	R6年度	町立保育園の統合・ 民営化	町立保育園の統合・ 民営化	町立保育園 5園		町立保育園の統合・民営化に 向けて再編計画を協議中	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、対面 での会議開催は見合わせたが、書面でいただいた ご意見を集約した。	再編計画策定に向け、委員、保護者、関係者各位とも引 き続き、協議していく。
29	新規	38	子育て環境 中能登町の男女が幸せになる 普及促進事業	①第3期男女共同 参画行動計画の策 定 ②普及イベント開 催数(年間) ③生産年齢人口数 (新規) (15~64歳)	企画課	①第3期男女共同参 画行動計画の策定 (R2年度目標) ②普及イベント開催 数 ③生産年齢人口数 (15歳~64歳)	R6年度	①第3期男女共同 参画行動計画策定 (R2年度目標) ②普及イベント開催 数 ③生産年齢人口数 (15~64歳) 8,200人 ※2015年国勢調査 人口参照	R6年度までに ①第3期男女共同 参画行動計画策定 ②普及イベント開催 数 2回/年 ③生産年齢人口数 (15~64歳) 8,200人 ※2015年国勢調査 人口参照	①第2期行動計画 策定済 ②2回 ・講演会、料理教室 ③8,580人(H30) (年齢別人口集計 票:9,517人)	R元年度	①令和3年3月 策定済 ②20回 ③9,139人 (R.3.31時点) ※住民基本台帳人口参照	令和3年3月に10年間(令和3年度~令和12年度) の男女共同参画推進の方向性を示した「第3期中 能登町男女共同参画行動計画」を策定し、男女共 同参画推進に向けてより具体的な数値目標43項 目を設定して仕上げた。また普及イベントについ ては、例年、「中能登町男女共同参画推進員の会」が 中心となり、講演会や料理教室などを開催してき たが、新型コロナウイルス感染症の影響でイベント開 催できなかったが、推進員の記念誌「10年のあゆ み」の製本や産西高校と連携した紙芝居制作、内 閣府が進める「おとう飯」のレシピ募集など新しい視 点の取り組みを実践することができ活動事業の幅を 広げることができた。	策定した男女共同参画行動計画に基づき各種団体と連 携しながら、ウィズコロナも意識しながら活動の見直しを 行い目標達成に努める。 また、生産年齢人口については、第2期総合戦略の策定 時は、2015年の国勢調査人口を参照しているため、20 21年の国勢調査人口の確定値が未発表のため比較はで きないが、令和2年度においては住民基本台帳の実績値 を参照した。前年度と比較すると減少しているが、目標 値を上回っている。今後も第2期総合戦略の目標である 「出生率日本一」を目指して、生産年齢人口の獲得戦略 を推進していきたい。 ※生産年齢人口(15~64歳) (1)住民基本台帳参照 【R2.3.31時点】 9,351人 【R3.3.31時点】 9,139人  (2)国勢調査人口参照 【第2期総合戦略目標値】 8,200人(2015年データ参照) ※2020年の国勢調査人口の「確定値」が未発表
30	継続	39	地域 古民家・土蔵 活用事業	古民家の活用軒数	企画課	古民家・土蔵の 活用件数	R6年度	累計5軒	R6年度までに5軒	5軒 みおやの里 旧丹後部 アズマの百笑宿 織姫の宿くつろぎ 鶴様道中の宿	5軒	1軒 喜屋	農家民宿の開業を目指す、地域おこし協力隊の 最終年となり、令和2年度に農家民宿開業、旅館業 許可、飲食業許可。現在、一日一組の家族宿として 民宿を経営するほか、道の駅織姫の里なかのにと も、お弁当を仕入れるなどの営業戦略も展開。アフ ターコロナを見据えての受入宿としての期待がかか る。	KPI目標値達成に向けて、アズマダチの魅力をPRすると ともに、創業可能な空き家を調査しながら人材確保にも つなげていきたい。

●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策事業名	目標項目	担当課	目標	達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績	令和2年度の活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記	
						数値・内容目標	同左数値の 目標達成年次	同左目標達成 の数値・内容	KPI提案	KPIの現況値 及び内容	同左現況値の 年次	令和2年度			
31	継続	40	地域	公共施設 利活用事業	個別施設計画の策 定	総務課	個別施設計画の策 定	R6年度	個別施設計画の全 施設分の策定完了 (大分類19分類)	—	大分類の4分類策定済(社会 教育、子育て支援、行政、供 給処理施設、道路、橋梁、上 水道施設、下水道施設)	R元年度	大分類の8分類策定済(社会 教育、子育て支援、行政、供 給処理施設、道路、橋梁、上 水道施設、下水道施設)	所管課に対し、令和2年度中の策定を周知した。	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記
32	継続	40	地域	旧学校施設の 利活用	旧学校施設の施設 利用の決定	学校教育 課	施設利用の決定/(3 施設)	R6年度	施設利用の決定/ (3施設)	旧鳥屋中学校、旧 鹿西中学校、旧久 江小学校の利活用 の決定	3施設	R1年度	3施設のうち1施設の利活用 決定(旧鹿西中学校)	旧鹿西中学校校舎は、行政サービス庁舎として R3.2.1～開庁。 旧鹿西中学校体育館は、鹿西体育館として社会体 育施設として活用。	3施設のうち、1施設が行政サービス庁舎としての利用と なった。残る2施設についても、引き続き、利活用を検討 する。
33	新規	41	地域	日本語教育事業	①日本語教室の開 催数 ②日本語教室の参 加者数	生涯学 習課	日本語教室開催及 び参加者 累計200人	令和6年度	・「日本語クラス」年 12回 ・「多文化共生クラ ス」年12回 累計200人	令和6年度までに ・「日本語クラス」60 回 ・「多文化共生クラ ス」年12回 ・累計200人	・「プレ教室」年10回 ・「多文化共生イ ベント」年2回 ・20人	令和元年度	①開催16回/年 ②参加者延べ340名	令和元年度から公設民営方式を採用し、令和2年 度から中能登町国際交流の会に事業委託し、日本 語教室の運営を行った。年間22回開催を計画し、 日本語クラス、多文化共生クラスの2クラスにより 開催した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大 防止対策に伴い、4月～5月の教室を中止した関係 で今年度は16回の開催となった。また、コアメン バーによるコアミーティングを毎月実施し、企画立 案や教室運営に係る事項について協議してきた。 <small>この教室の開催目的は、外国人住民の生活支</small>	令和2年度は、計画回数に達することは出来なかったが、 コロナ禍のなかであっても感染対策を徹底し、緊急事態 宣言及びまん延防止等重点措置の適用期間を除いた時 期は開催を実施した。コロナウイルス感染症の終息の見 通しが立たないが、オンラインによる開催方法も検討しな がら出来るだけ多く開催できるよう努力する。
34	新規	40	地域	図書館統廃合事業	①図書館の集約 ②図書館入館者数 (改修後)	生涯学 習課	①鹿島図書館を町 立中央図書館1館と する。 他2図書館は利用者 の読書空間を維持 できるよう施設の在 り方を検討。 ②入館者数 (改修後)	令和3年度	①鹿島図書館、旧 保健センターの改 修基本構想を検討 する。鳥屋・鹿西図 書館施設の方向性 を他課とも協議。 ②入館者数 (改修後) 144,000人	①3施設から1施設 に集約する。 令和2年度中に実施 設計を行う。 ②入館者数 (改修後) 144,000人	①図書館3施設 鹿島図書館、旧保 健センターの改修基 本構想を検討。 ②入館者数 (103,948人 (鳥屋・鹿島・鹿西) 3館合計)	令和2年度	①1施設集約 ②19,624人	(1館集約) ・令和2年7月6日 実施設計契約 ・令和2年10月30日 実施設計が完了 ・令和2年12月 議会定例会議で工事費を計上、可 決 ・令和3年1月 図書館整備工事の一般競争入札 ・令和3年1月29日 議会臨時会議を開催し、議決 承認を得て、本契約を締結。 工事期間は、令和3年3月31日とするが、その後 繰越事業とし、令和3年10月の完成を目指してい る。 (入館者数) ・鹿島図書館 7,848人 ・鳥屋図書館 5,969人 ・鹿西図書館 5,807人	長年の計画でもあった図書館の集約について、議会の承 認を得て工事契約を締結し、工事着手とした。また、条例 改正で町立図書館を1館とし、2図書室とする。 ・議会9月定例会議にて図書館条例改正(1館となる) ・令和3年10月15日工事完成 ・令和3年12月上旬リニューアルオープン予定 入館者数については、令和3年度中はコロナ禍による減 少と工事による休館期間の影響もあり伸び悩むが、リ ニューアルオープン後は来館者数の増加に期待する。
35	継続	40	地域	町ホームページを 活用した 地域情報の発信	ホームページのア クセス件数	情報推 進課	年間約792,000件 月平均 約66,000件	R6年度	年間約792,000件 月平均 約66,000件	年間約12,000件の 増 月平均 約1,000件の増	年間約780,000件 月平均 約65,000件	R1年度	年間 約1,050,000件 月平均 87,500件	新ホームページシステムをH31年度に導入済み。 安定的なホームページ環境を整備し、災害等緊急 時においても円滑な情報提供を行った結果、増と なった。	本町のイメージや魅力が伝わりやすいホームページを整 備し、使いやすく、探したい情報に着けるように努める。
36	継続	40	地域	観光・防災 WiFi環境の整備	観光・防災Wi-Fi 環境の整備箇所数	情報推 進課	9カ所	R6年度	累計9カ所	5カ所整備 ・旧鹿西中学校(= 行政サービス庁舎 横の鹿西体育館) ・中能登中学校 ・ラピア鹿島 ・町社会福祉セン ター飛翔	累計4カ所 ・道の駅 ・石動山資料館 ・雨の宮 ・不動滝	R1年度	0カ所の未整備	令和2年度は旧鹿西中学校校舎棟を行政サービス 庁舎に改修工事を実施したが、防災拠点となる隣 接した鹿西体育館や他施設整備へのWi-Fi環境 整備まで出来なかった。	順次、防災Wi-Fi環境の整備に努める。
37	継続	41	地域	空き家対策事業	①空き家バンク成 約件数(年間) ②空き家判定件数	企画課	空き家対策協議会 による空き家審議件 数 空き家バンクでの契 約成立	R6年度	判定件数20件 契約成立25件	判定件数4件/年 契約成立5件/年	判定件数 一 契約成立 5件/年	— H27～31年度	①13件 ②0件	空き家バンクに新たに16件の物件登録があり、13 件が成約した。	空き家の利活用については、引き続き、空き家バンク制 度の周知を図り、利活用可能な物件の情報を収集し発信 する。 また、危険空き家の対策として、現状は所有者を調べて 解体等を促す程度にとどまっているが、今後は他課と連 携をして、より積極的に対策を進めていく。

●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策 事業名	目標項目	担当課	目標	達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績	令和2年度の活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記	
						数値・内容目標	同左数値の 目標達成年次	同左目標達成 の数値・内容	KPI提案	KPIの現況値 及び内容	同左現況値の 年次	令和2年度			
38	継続	41	地域	基幹道路の整備	災害時の代替道路 の整備路線数	土木建設課	起点側 L=460mの整備 終点側 L=200mの整備	R6年度	起点側 L=460mの整備 終点側 L=200mの整備	R6年度まで全線開 通	一部供用	R元年度	起点側 L=0m 終点側 L=0m 事業計画策定済	地方創生整備推進交付金事業実施を計画し、国 に要望を行った。	R6年度開通に向けて事業進捗を図る。
39	継続	41	地域	生活道路の整備	道路の狭隘区間解 消数	土木建設課	道路改良 10路線	R6年度	15路線	年間 2路線	3路線	R元年度	3路線実施	道路の狭隘区間解消工事を3路線実施した。	引き続き、狭隘な生活道路の改良工事を行い、地域住民 の利便性を図り、安心安全な生活環境づくりを目指す。
40	継続	41	地域	通学路の 安全点検の実施	通学路安全合同点 検の実施	学校教育課	通学路の安全合同 点検の実施と協議 会の開催	R6年度	通学路安全合同点 検を実施し、改善で きる箇所は対応して いく	毎年、通学路安全 合同点検を実施し、 改善できる箇所は対 応していく	3小学校の通学路安 全合同点検の実 施、中能登町通学 路安全推進協議会 の開催、中能登町 通学路安全プログラ ムの公表	R1年度	通学路安全合同点検を実施 した。  点検箇所： 26箇所 改善箇所： 10箇所	3小学校学校からあがった点検箇所について、通学 路安全合同点検を実施(夏季休業中) 中能登町通学路安全推進協議会を開催し、改善箇 所の報告、確認を行った。	今後も毎年、通学路安全合同点検を実施し、改善できる 箇所は対応していく
41	継続	41	地域	交通安全防犯灯 施設整備事業	防犯灯の設置数	総務課	LED街灯の設置 町管理:1,300基 地区管理3,000基 計:4,300基	R6年度	4,300基	年間200基	3,321基	R元年度	新規設置27基 更新264基	地区に対し、地区防犯灯事業費補助金交付要綱の 周知を行うことにより、地区より多くの申請があり、 更新数が増加となった。	防犯の観点から、該当の更新及び新設の目標達成に向 けて、各地区に周知を行う。
42	継続	41	地域	消防・防災等 災害対策事業	地区防災力の強化 及び防災士の配置	総務課	防災士の増員 232人	R6年度	232人	年間15人	157人	R元年度	新規取得者 30人 防災士総数 185人	未配置となっている地区への働きかけを行ったこ と、また、既に配置されている地区には、更なる地 区防災の強化に働きかけたことにより、防災士の育 成数の増加となった。	未だに防災士がいない地区もあるため、空白地区を埋め るためにも各地区に、防災における共助の観点から防災 士の配置を促す。
43	継続	41	地域	災害に強い 町づくりの推進	耐震改修実施戸数	土木建設課	耐震改修実施戸数 10戸	R6年度	10戸	年間 2戸	5戸	R元年度	0件	コロナウイルス感染症対策の影響により耐震相談 会を大々的に実施できなかったことから、耐震改修 にかかると申請が0件となった。	引き続き、相談会の実施するなど、事業進捗を図ってい く。
44	継続	42	地域	地域福祉の推進	地域福祉座談会の 実施	中能登町社会 福祉協議会	1年間に6地区で地 域福祉座談会を実 施する。基本的 には、1地区で2回開 催する。R2~R6年 も地域を回り、地域 福祉の課題を今後も 継続して実施する。 将来は全地区を網 羅する。	R2年度	30地区	年間6地区	R元年度は良川沖・ 地頭・北、在江地区 で実施した。 進捗割合:24/62町 内会	R元年度	0件	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度の 地域福祉座談会は中止した。	地域福祉座談会では、区・町内会単位で地域住民が地 域福祉の問題や課題を話し合い、解決に向けて意識の 高揚を図ることを目的としている。令和2年度は、コロナ 禍の状況が続き収束の傾向が困難であると判断をし、開 催を中止した。今後、新型コロナウイルス感染症拡大が 収まり、住民の健康安全面が確保されるとみなされた場 合、地域福祉座談会をする。

●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策事業名	目標項目	担当課	目標		目標内容の現在の数値・内容		同左数値の現況年度を明記	KPI(重要業績評価指数)実績		KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方針などを明記	
						達成年度	目標値 目標内容	達成年度の設定	目標内容の現在の数値・内容		令和2年度	令和2年度の活動内容		
45	新規	4.2	地域	日本語教育事業	生涯学習課	日本語教室開催及び参加者累計200人	令和6年度	・「日本語クラス」年12回 ・「多文化共生クラス」年12回 累計200人	令和6年度までに ・「日本語クラス」60回 ・「多文化共生クラス」60回 ・累計200人	令和元年度	①開催16回/年 ②参加者延べ340名	令和元年度から公設民営方式を採用し、令和2年度から中能登町国際交流の会に事業委託し、日本語教室の運営を行った。年間22回開催を計画し、日本語クラス、多文化共生クラスの2クラスにより開催した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、4月～5月の教室を中止した関係で今年度は16回の開催となった。また、コアメンバーによるコアミーティングを毎月実施し、企画立案や教室運営に係る事項について協議してきた。この教室の開催目的である「外国人住民の生活をサポートする」、「外国人住民と地域の人が楽しく豊かに暮らす」を常に意識して行っている。教室では、地域での生活に必要なルールを学べるほか、日本や中能登町の歴史や文化を知ってもらえることができる。また、地域住民と日本語で会話ができるようになることから、情報交換や交流が図られ、地域参画と共助が生まれるようになり、多文化共生の町づくりの推進が図られる。教室に参加した外国人学習者は、実人数で25人であった。また、運営スタッフとしては、サポーターが26人、ボランティアサポーターが7人の参加であった。	令和2年度は、計画回数に達することは出来なかったが、コロナ禍のなかであっても感染対策を徹底し、緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用期間を除いた時期は開催を実施した。コロナウイルス感染症の終息の見通しが立たないが、オンラインによる開催方法も検討しながら出来るだけ多く開催できるよう努力する。	
46	新規	4.2	地域	コミュニティスクールの開校	学校教育課	4校の開校	R6年度	4校の開校	R6年度までに、各小中学校で、コミュニティスクールを開校する	0校	R1年度	0校	既に実施しているかほく市への視察研修を行い、取り組みの実際を学び、実施に向けての参考とした。	コロナ禍でコミュニティについての取り組みを進めるには困難な面が多いが、コロナ収束後を見据え、令和3年度から順次、コミュニティ・スクール設置に向けての協議を進める。
47	新規	4.2	地域	手話啓発事業	長寿福祉課	庁舎窓口到手話通訳者1名配置を目指す。	令和6年度	1名	1名	0名	令和元年	常勤0人 (※年間54日配置)	・意思疎通支援事業の一環として総務庁舎、行政サービス庁舎に定期的に設置 ・町ケーブルテレビを通じて、手話の普及啓発活動の実施 ・鳥屋小学校、鳥屋学童及び鹿西学童で手話教室を実施	正規、非正規を問わず、町職員として手話通訳通訳者の声掛けを行っているものの、庁舎窓口勤務で手話通訳者が見つからないのが現状であることから将来を見据え、手話通訳者養成講座に取組んでいる。
48	継続	4.2	地域	介護予防事業	長寿福祉課	介護予防事業実施会場数(地域つながりサロン、いきいき百歳体操、シルリハ体操教室)	R6年度	68か所	R6年度までに68か所	60か所	令和元年度	71	・地域つながりサロン ・いきいき百歳体操 ・シルリハバビリ体操(通称:シルリハ)3級指導士養成講習会及び指導士活動支援	介護予防の推進として、地域つながりサロンやいきいき百歳体操、シルリハ体操教室の実施会場数を増やし、高齢者が安心して集える「通いの場」「居場所」を計画どおり町内に広げることができた。また、シルリハ体操指導士が住民にボランティアで体操を指導するという地域での役割を担えるよう、指導士の活動を支援した。今後も「通いの場」「居場所」を町内に広げ、高齢になっても生きがいや役割を持ち、地域の担い手となる人を増やし、高齢者の社会参加を促進する。
49	継続	4.2	地域	認知症地域支援の推進	長寿福祉課	認知症サポーター数の養成	R6年度	3,550人	R6年度までに3,550人	2,300人	令和元年度	2,593人	・地域や学校、職場における認知症サポーター養成講座 ・認知症サポーターのためのフォローアップ講座は、コロナ禍のため実施できず。	認知症を正しく理解する人を増やすため、地域や学校、職場において、認知症サポーター養成講座を計画どおり実施した。今後は認知症サポーター養成講座を修了した人に復習を兼ねて学習する機会(フォローアップ講座)を設け、地域で活躍してもらう取り組みを推進していく。



## ●中能登町まち・ひと・しごと創生総合戦略における具体的施策の実施状況【第2期:令和2年度-令和6年度】

【KPI及び実施内容】

No.	頁	分類	具体的施策 事業名	目標項目	担当課	目標		達成年度の 設定	目標内容の 現在の数値・内容	同左数値の 現況年度を明記	KPI(重要業績評価指 数)実績		令和2年度の 活動内容	KPIの目標達成状況の分析(達成・未達成)の今後の方 針などを明記
						達成年度	目標 目標内容				令和2年度	令和2年度の 現況年度を明記		
50	新規	43	地域 中能登町運転免許 証自主返納支援事 業	免許返納者の年間 利用数	企画課	1200回 免許返納者の年間 利用数	R6年度	1200回	令和6年度までに 1200回	1063回	平成30年度	1210回	免許返納者に対し、55回分の回数券を配付。 また、親しみやすいバスを目指し、車内において四 季折々の飾り付けを行った。	KPI目標達成に向けて、親しみやすいバスをPRすると ともに、利用者増につなげていきたい。
51	継続	43	地域 史跡石動山の 発掘調査 報告書の作成	史跡石動山の発掘 調査報告書の作成	生涯学 習課	埋蔵文化財調査報 告書(調査概要年度 分)作成	令和6年度	埋蔵文化財調査報 告書(調査概要年度 分)作成	令和6年度までに報 告書作成	資料収集・整理	令和元年度	資料の収集と整理を継続実 施	調査図面(五重塔跡・籠堂跡・開山堂跡)の整理作 業を実施した。	報告書刊行に向けて資料の収集と整理作業を進めなが ら原稿執筆に取り組む。
52	新規	43	地域 獅子舞文化継承事 業 おにぎり発祥文化 継承事業	伝統文化継承事業	企画課	5件 (令和6年度) イベント	R6年度	5件	5件	-	-	0件	コロナ禍で町内の獅子舞文化やおにぎりの普及の イベントが中止され推進できなかった。	KPI達成目標に向けて、おにぎりを盛り上げる町民有志の 会「中能登おにぎり緑むすびの会」が発足。今後の事業 展開に期待がかかる。一方、獅子舞文化については、(一 社)ななお・なかのとDMOと連携するリビングストーリー事 業で歴史文化を再現する事業が採択され、今後獅子舞 文化も取り入れしていきたい。